

卒業式特集



今年も3年生の去った教室を見て回った時、何とも言えぬ感慨が湧きました。
 かけがえのない3年間を彼らはここで過ごしたと思います。
 生徒がそうであるのと同じように、実は私たちにとってもかけがえのない3年間でした。
 次々に思い出の湧くのを留めるわけにはいきません。
 けれどまた新たな生徒たちが目の前にやってきます。
 その時また、私たちは「思い出」を胸にしまって新しい教師となって新しい教室に立つことになります。
 今年も桜の季節が近づきました。



学校長 井戸 裕久

音楽科

オーストリア修学旅行

3月6日~12日



しおり内レポート(日記)より抜粋



国立オペラ座見学

211 高橋 舞衣 (弥富市立十四山中学校出身)
 今日の一番は国立オペラ座の舞台を見たことです。舞台運営の仕事を見ている私にとって、興奮を止められませんでした。諦めかけていたその夢をもう一度見たい、頑張りたい、と思ってきました。日本の音楽業界がどんどん低迷しているので、いつか海外に飛ぼうかと思えるほど素敵でした。もドキドキが止まりませんでした。いつかここで、この国立オペラ座でクラシックを聴きたいです。



バレエ鑑賞

211 高坂 知保璃 (千鳥丘中学校出身)

私は3歳のころからバレエを習っているのですが、外国のバレエを見られるのは本当に嬉しかったです。この日をとても楽しみにしていました。「牧神の午後」はローザンヌバレエコンクールなどでも選ばれる踊りで、やっぱりプロのつま先はすごく素敵で、動きがしなやかでした。私もいつかあんな風に踊れたらなと思いました。「カルミナブラーナ」は初めて見たけど、本当に感動しました。主役の男性が「女の人？」と間違えるくらいしなやかで力強い踊りでした。私も頑張ろうと思いました。

マウトハウゼン 強制収容所訪問

211 一木 三花子 (江南市立西部中学校出身)

人種差別によって働かされ命を失ったたくさんの人達について、目で見ても聞いて、資料を読んで、本当につらかったです。しかし、とても空がきれいでした。働かされていた人の中には、生きる希望をもっていた人もいたと思います。助かると信じて生きていた人達も同じ空を見ていたのかな、と考えさせられました。



Schedule <行事予定>

4月	
6月	入学式 学特説明会
7月	始業式
10月	基礎学力検定
13月	美術系EP説明会
14月	語学系EP説明会
15月	医療看護MP説明会
17月	クラブ総会
21月	1年生フレッシュマン合宿(～23日)
23月	2年生遠足 3年生上山研修
24月	休校日
25月	PTA常任委員会
5月	
9月	留学説明会 PTA総会 進路ガイダンス 学級懇談会
15月	体育大会
22月	ウエサカ祭
25月	午前授業
26月	中間考査(～29日)
30月	PTA常任委員会 地域懇合同地区委員会議
6月	
5月	英語検定
10月	生徒会立会演説会
13月	創立記念日
18月	芸術鑑賞
19月	2・3音 公開実技試験
20月	数学検定
21月	珠算電卓検定
27月	地域懇談会
28月	地域懇談会 簿記検定 秘書検定
30月	1普2普午前授業

※土曜特別授業:4/25-5/16・23-30/6/6-20・27

卒業式

2014年度卒業式を挙行了しました。第2部は恒例の卒業生による合唱構成詩が披露されました。今年度のテーマは「朋」。同朋高校で出逢った3年間の仲間との軌跡が、18年間の歩みが刻まれていました。



2014年度

合唱構成詩「朋」

◆入学式

入学式といえば、満開の桜だけけど、当日には桜は散り始めていた。校舎を見上げるたくさん名前が並んでいた。お母さんと一緒に自分の名前を探す。「あつた」「知らない名前に囲まれていてちよびり不安。でも、これからあの子たちと一緒に過ごすんだって少しワクワクした。初めて「合掌」と聞いたとき、仏教の学校に通うんだと実感した。歌うのかと思って戸惑ったのは私だけじゃないよね？

◆フレマン

入学して早々、勉強合宿が始まった。まだ名前も覚えてないクラスメイトと3日間も過ごすなんて不安だらけ。でも「これ教えて！」「いいよ！」一緒に机に向かううちに仲が深まっていた。こんなに勉強したのは初めてだ。頭をたくさん使った後にみんなで食べたご飯は本当においしかったなあ。

みんなで作ったクラス目標。私たちのクラスは「アラのマーチ」。ゴアラのマーチみたいに、一つの箱に個性豊かな仲間がまとまるクラスにしたい！

◆体育大会

1、2年の頃は練習が面倒くさいとか、色が嫌いだとか、やる気ゼロ。練習する気もなし。だから部活を言い訳にして参加しなかった。本番が近くなっても踊れない私に先輩は優しく教えてくれた。本番、生懸命踊ったけど優勝はできなかった。悔しくて泣いている先輩を見て、かっこいいと思った。来年は自分たちが後輩を引っ張って。

最後の体育大会、まだまとまりのないクラス。みんな協力しようとしてくれて頑張ろうと誓った。でも後輩を引っ張っていく立場は想像以上。「どうしたら協力してもらえるかな？」「体育大会の楽しさを伝えられるかな？」うまく進められなくて、何度も対立して、何度も話し合いを重ねる。本当はみんな良いところがあるのに、欠点ばかりが見えてしまう自分が情けない。でも、本番に近づくと少しづつ群団がまとまってくるのを感じて、これならいける！結果、賞は取れなかったけど、それ以上に価値のあるものを得ることができた。

群団対抗リレーで転んでしまった私。自分のせいで負けたんだと責任を感じ、悔しくてたまらなかった。

最初は名古屋の人の喋り方が全然聞きとれなくて馴染めるか不安だった。でも授業で先輩や後輩と一緒に音楽をやっているとそんな不安は吹き飛んでいった。

先生の求めていることを頭では理解しているけど上手く楽器で表現できないことが悔しかった。何度も怒られて、辞めたいと思ったこともあった。「なんで私の先生だけ厳しいんだろう。みんなもって簡単な曲やってるじゃん。」泣きながらレッスンを受けた日もあった。それでも諦めず熱心に教えてくれた先生。先生の期待は私を成長させてくれた。

少人数で1クラスしかない音楽科。第一印象はおとなしいお嬢様だったのに、本当は個性的な人ばかり。長い時間を共有してきたからこそケンカも多かった。でも音楽の事になると目が変わるクラスメイト。みんな音楽が好きで、真実に音楽を学びにきてたんだね。

3学年共通の授業があるから、他の学年とも仲良しなところも音科の特徴。友達だけじゃない環境での授業は刺激になった。音楽のおかげでみんなと出会うことができた。音楽を通して心をひとつにすることができた時の喜びは、僕たちにとって大切な思い出。やはり音楽で最高！

◆進路

1年の頃は目標も何もなかった僕。でも先生から「毎日努力すれば、これからの人生必ず差が付く」と言われ、勉強だけは頑張ってきた。そのおかげで勝ち取った指定校推薦。あの言葉を守った先生に感謝してる。

一般入試を目指す俺は毎日勉強の日々。周りのみんなは進路が決まって浮かれてた。それに対してムカついたりうらやましいとかは思わない。俺は、叶えたいものがあるから好きで受験勉強を頑張ってるんだ。東京に出て日本の最先端を見る。そして将来、自分に価値をつけたい。絶対志望校に入る！

「お前は優しいから看護師になったらいい」おじいちゃんからの言葉をきくたびに、私は看護師になることを決めた。部活のキャプテンと勉強の両立。周りからは厳しい言葉をたくさん言われた。それでも諦めたくなくて、必死に勉強した。

でも、クラスのみんながかけてくれた言葉は「ありがとう」。総合優勝の発表で、私たちの群団が呼ばれた時は仲間たちと抱き合った。体育大会は、たくさんの人と協力して作り上げた大切な思い出。来年は、みんなが後輩を引っ張っていく番だよ。

◆文化祭

初めての文化祭は漫画みたいな文化祭を想像していた。2年生のテーマは同朋ミュージアム。1年のときよりクラスに活気がなかった。「同朋の文化祭は楽しくない」みんなが口をそろえて言う言っていた。それでも最後にはちゃんと完成に向けて作業を手伝ってくれたクラスメイト。当日はなんだかんだ楽しめたよな。

高校生活最後の文化祭。なんとなく内容が決まってる、なんかなるだろうって思っていた。でも夏休みは全然人が集まらない。SNSで連絡しても無視される。初めてクラスが嫌になった。でも準備が進むにつれて1人、また1人と参加してくれる子が増えて、クラスに芽生え始めた体感。なんだ、うちのクラスにもできるじゃん！そうか、うちらはロスリーダーだったね。

文化祭前日になって、キャストが「ギャグ」を入れたと言ってきた。私たちは照明や音響で勝負する真面目な演劇を創りたかった。だから、ギャグなんて絶対許せなくて猛反対！本番前日なのに最悪な空気がクラスに漂う。翌朝、何事もなかったかのように元気で明るいクラスメイト。本番はアクシデントの連続。結局ギャグは入れた。お客さんの笑い声。ちよと見直したな。

全敗だった体育大会の悔しさから、3商でアカデミーを取ろうと約束した。でもか月を切ろうとしても集まらないクラス。何回も振出しに戻り、このままどうなっていくんだろうって不安と焦りだけが募っていた。あの日の約束を実現させたい。その想いからみんなでもまだ頑張ろうって声をかけ合う。日に日に増えていくクラスメイト。練習を繰り返して、前日までお互いアドバイスを出して3商で抱き合った。ありがとうを言い合った時、約束を実現できたこと、わたしたちの頑張りが認められたんだと実感した。

おじいちゃん、私合格したよ！お母さんを越える看護師になるから。これからは天国から見守ってね。

ずっと働きたかったところでの就職が決まって、私の夢が叶った。これは先生やクラスの皆のおかげ。先生が就職先に求人をお願いしてくれたり、クラスの皆が丸となって応援してくれた。私を助けてくれたいろんな人に、働いて恩返ししたい！

◆自主活動

私たちが中学2年生の3月11日、東日本大震災が起こった。それから1年後、私たちは同朋高校へ入学した。

僕は東日本大震災の時、福島県の富岡町に住んでいました。そこは福島第一原子力発電所の10km圏内、あの地震の日から僕の生活は大きく変わりました。それまで僕は家族と不自由のない生活をしていましたが、あの地震により多くのものが失われました。1週間もすれば帰れると思っていたのに、僕はもう1生家には帰れません。僕の家族は親戚の住む名古屋に避難し、僕は同朋高校へ入学しました。当たり前前にしていることは、多くの幸せの上に成り立っています。

進路や就職で苦しむ中、本番までの日々にはそれだけにたくさんドラマがあった。私はあの瞬間を忘れない。

「つ」のことをたくさんの人となし遂げた時の喜びは、本当に大きい。生懸命になれ。絶対に後悔はしないから。

◆普通科・商業科修学旅行「沖縄」

「はい、さーい！」まだ太陽が登らない朝、僕たちは空港へ向かった。なかなか来ないクラスメイトに出発できるかそわそわした。初めての飛行機。初めての沖縄。気分が高まった。「めんそーれ！」フェリーで向かった先は伊江島。知らない場所。泊まるのは不安だったけど、おじいおばあが温かく迎えてくれた。おばあのご飯は不思議とほっとする味がした。楽しみにしていたのに当日は雨。綺麗な海で遊びたかったのに。そんな私たちのためにおばあは車を出してくれられた。綺麗な景色は見れなかったけど、びしょびしょになって遊んだ。本当に短い間だったけど、おじいおばあは大好きな家族。島も好きになった。島を離れる日、「いつてらっしゃい」と手を振ってくれた。絶対また会いにくるからね。おじい、おばあ、行ってきます！

最終日は国際通りで待ちに待ったお買い物！友達とおそろいのTシャツをつくって歩いた。お店がたくさんありすぎて目が回りそうだった。試食がおいしくてたくさん買ったな。

平和学習。初めて入った方々は真っ暗で怖かった。静かなガマにガイドさんの声が響く。二音に懐中電灯の灯りを消した時、隣の友達顔すら見えなくなった。この暗闇にずっと隠れてたんだと思うと、瞬間に恐怖に包まれた。事前学習で学んだこと、目の前の真実。当時の人たちは、複雑な気持ちで過ごしていたんだと思う。こんな悲しい思いはもう誰にもさせない。

◆音楽科修学旅行「オーストラリア」

音楽の部、オーストラリアへ5泊7日の修学旅行。初めてのヨーロッパはとても楽しみで、出発する前日は眠れなかった。

オペラ「カルメン」の迫力と臨場感。授業で学ぶのと実際に見るのでは、全然違う。やはり本

日々の生活に感謝し、二日いちにちを大切に過ごしてもらいたいと思うのです。僕は被災しましたが、同朋でみんなと出会うことができて本当に幸せです。

私が東北へ訪れた時は、1年も経っているとは思えない状況だった。周りはがれきの山。やつと現実を知ることができたような気がした。「顔が晴れる」と書いて「がんばれ！」「いつまでも下を向いて、ちよだめだよ」「元気づけよう」と思ったのに逆に元気づけられた。東北の人の思いを胸に、身近でできることを考えていきたい。

新歓フェス、サマセミ、オータムフェス、BIGフェス。様々なイベントを成功させるために真剣に議論して、時にはもめたりもした。でも、そういった出来事の積み重ねで大きく成長できた。最後まで頑張れたのは、たくさん仲間の支えがあったから。

友達の良い顔が見たい、より充実した文化祭を作りたい。そのために中夜祭という新しい企画を作り上げたかった。もうやめたいと何度思ったかな。そんな中で、協力してくれる仲間に出会った。だてで最後にはみんなが楽しんでる姿を見れたから。

◆部活

高校生活最後の試合が終わった瞬間、自然と涙が出てきた。負けた悔しさもあつたけど、それ以上にみんなと練習したり、ふざけあつたり。そんな当たり前だった毎日がなくなることが寂しかった。仲間と過ごした時間は宝物。

本当に私がキャプテンでいいのかな？そんなことを思いながら部活に行っていた。でも、1人しかいない3年生の私に優しく声をかけてくれた後輩と、戻ってきてくれたあの子のおかげで引退することができた。最後までついて来てくれた仲間に出会えて、私は幸せです。

部活に対して不安しかなかった。悩んでいるうちに部活を引退してしまつて、あの忙しかった時間は何だったんだろうってふと思うことがある。それでも私は部活に入っていたこと後悔はしていない。だって、これから先、部活以上に全力で突っ走れるものに出会えないと思うから。



◆商業科

1年生の1学期。14人しかいなかった俺たちは、54人の女子の圧力に3年間やつていけるのか不安だった。俺たちに拒否権はなかった。今だから言えるけれど、俺たちの方が女子力があつたかも。昼にはあふれるゴミ箱。午後にはもう入らない。ゴミを捨てに行くのは僕たち。「まいいじゃん！仲良しだもん。」

商業科といえば検定。分厚い対策プリントをもらつたのに嫌になった。検定の勉強をしたくても、定期テストと重なつたり、クラスがうるさくてなかなか集中できなかった。そんな中でも授業後、夜遅くまで残ったり、土日も学校へきて、友達と教えあつた。商業科全員で愛知県知事賞を目指そう！ドキドキする検定発表。廊下に二人ずつ呼び出される。自分のことより友達のことの方が気になった。廊下から戻ってきた友達の話は明るかった。商業科史上、最高人数が県知事賞を受賞した。

◆音楽科

いつも賑やかで、うるさくて、友達思いの3商。本当にいい仲間めぐり逢えたよ。



全国大会を目標に、休みもなく部活に打ち込んだ。高校最後の全国へつながる試合は無制限の延長戦にもつれこんだが、なんとか全国大会へ出場が決まった。私がここまで来たのは、休日を返上してまで練習に付き合ってくれた顧問、苦しい時は支え合って、共に厳しい練習を乗り越えてきた仲間のおかげ。

私たちが引退してからも、もっと成長してほしかったから、たくさん厳しいことを言った。理不尽だと感じたこともあったと思う。でも引退までついて来てくれたこと、みんなが諦めないでいてくれることが私の支えだったよ。

私たちの代にできなかった新しいことにもたくさん挑戦してほしい。応援してるからね。

日頃あまり感情を顔に出さない先生。先生が何を考えているかわからなかった。そんな先生が担任でちょっと不安だった。だから、文化祭の演劇が終わった後、顔をくしゃくしゃにして泣いていたのには驚いたな。もっと自分に自信を持つて!!

私たちの担任はとっても泣き虫。こんな泣き虫な先生みたことない。先生は私たちのことを嫌い、よく嘘ついてたね。そんな先生は私が学校に行っていないときに、毎日心配してくれて。絶対めんどうくさいのに迎えに来てくれた。これからは生徒思いの先生でいてね。

保健室は私に居場所を与えてくれる。ちょっと悲しいことがあった時、嬉しいことがあった時、暇な時、いつだって笑顔で迎えて、話を聞いてくれたね。いつも文句言わずにアドバイスくれたり、本当に嬉しかったよ。

チャイムが鳴った瞬間、食堂までダッシュ！待ってるのは、おばちゃんたちが作った、美味しくてあったかいご飯。これからは仲間を守って。また食べに行くから!

ばうほど残酷なことではなく、人間に生きがいがあるほど大きな愛はない。「生きがい」には「生きている」という実感が伴います。続けて神谷さんは「ほんとうに生きている」という感じをもつためには、人生の流れはあまりになめらかであるよりは、そこに多少の抵抗感が必要だ。私たちがはともすると、苦しいことや辛いことを避け、楽しい時を過ごしたいと思ってしまう。楽しい時を過ごすことだけが「幸せ」であるかのように思うこともあります。けれど、神谷さんは逆に次のように言っています。「生きるのに努力を要する時間、生きるのが苦しい時間のほうがかえって生きている充実感を強めることが少なくない」。もちろん、ただ苦しいだけ、辛いだけはいけません。苦しき、辛さのその先が見えていることが必要でしょう。神谷さんは言います。「自分が何かに向かって前進していると感じられるときにのみ、その努力や苦しみを目標への歩として、生命の発展として」受け止められるのだ。

昔話の主人公「浦島太郎」は竜宮城で3年間夢のような時間を過ごします。苦しきも辛さも3年間です。もしもこれが「幸せ」と呼べるものならば、浦島太郎は元いた村には帰らなかったに違いありません。物語では残して来た父母のことが気にかかると書いてあります。が、本当のところは、たとえ苦勞が多くても、起伏や変化の多い、張り合いのある生活を望んだのでありましよう。

再度、神谷美恵子さんの言葉を繰り返しましょう。「人間から生きがいやうばうほど、残酷なことではなく、人間に生きがいやあたるほど大きな愛はない。「生きがい」こそが、人を生かす。「生きがい」を持った人の、何と強いことか、また、人に「生きがい」を与えること、何と素晴らしいことか!!」

いつもギリギリまで寝ている私を、お母さんは毎日起こしてくれました。私が起きる頃にはいつもお母さんが何時に起きて作ってあったお弁当。ずっと変わらないお母さんの味。忘れたいよ。

お母さんは辛くても悲しくても、1人で僕を育ててくれた。僕が悩んだり悲しんだりしているときは、1番に気づいて心配してくれました。お母さんは自分のことを後回しにしてまで僕のことを考えてくれた。お母さんからの愛情、ちゃんと届いているよ。

家に夜遅く帰る日が続いたとき、ついに母さんを怒らせた。「そんな風に遅く帰るなら、あなたの世話は切れない!」その日から何もしくなくなった母さん。そんな日々が1か月以上続いて、やっと母さんの大切さが1が付いた。

私が風邪で寝込んでいたとき「だいじょうぶか?」とメールをくれたお父さん。漢字に変換できないから全部ひらがなのまま。きど1文字ひともじ、生懸命打ったんだなあって伝わってきた。たった一言なのに嬉しくて泣いちゃったのは秘密。

お父さん、お母さん、あなたの子供に生まれてくることで、本当に良かった。

1年生のとき、大切な友達を失った。毎日常顔で登校している姿を見て元気をもらっていた。休みが続いたときは「次はいつ会えるのかな?」と心配だった。でも最後に会った時、あの笑顔。勇気や元氣、友達を思う気持ちをたくさん教えてくれた。天国でもあのままの笑顔だよ。

勉強しよって言うてたのに、ノートじゃなくて口ばかり開いちゃう私たち。たくさん騒いで、爆笑して、そんな当たり前だった毎日がなくなると思うとんだか寂しい。どんなときもそばにいてくれた友達。楽しい時、辛い時、ムカついた時、だっつて、いつも側にいた。何度救われたかわからないくらい助けてくれたよ。今度は私が助ける番!いつでも頼ってね。

学校へ行けば大好きな友達と会うことが、

PTA会長祝辞

卒業生のみなさん、3年間の高校生活はいかがだったでしょうか。入学してすぐに行われたフレッション合宿。不安と期待の中の仲間や先生との共同生活。いよいよ高校生活がスタートしたという実感が湧いてきたことでしょうか。クラスの仲間・集団で優勝を目指した文化祭・体育祭。チームをまとめる難しさを感じながら、一度まとまると途轍もないパワーを発揮する団結力。「仲間との関わり・仲間の大切さ」を感じたことでしょうか。クラブ活動では「目標達成に向かって日々努力をされました。楽しかったことや辛かったこと、たくさんありました。みなさんの中には「辛いことばかりだった」という方も多くはないでしょうか。しかし、クラブ活動に打ち込んだ3年間という時間は、誰からも消されることがなく、ずっとみなさんの「努力した結果」として永久に残ります。この経験は、皆さんにとって、苦難を乗り越える「自信」となり、心の支えになることではないでしょうか。沖縄の修学旅行では、戦争の悲惨さと平和の尊さを学びました。そして、伊江島の人々からの溢れるばかりの愛



きた。もう明日からこへ毎日通うことができないなんて、想像できない。何するにも周りには友達がいなくて、何とも感じていなかった毎日。先生に「ドッキリをしよ」ってお腹を抱えながら爆笑したり。くだらないことでお腹を抱えながら爆笑したり。体育大会とか文化祭と同じくらい、そんな毎日が忘れられない。3年間、一緒に過ごしてきた仲間と離れたくない。

恥ずかしくて直接は言えないけど、大好きだよ。みんなと過ごした毎日を、私は絶対に忘れない。同期でできた友達は、一生の宝物。卒業しても、ずっと変わらない関係だよ。

友、今どんな気持ちですか? ずっと変わらない友達の大切さを、同期で過ごした3年間の思いを歌に込めて

卒業生合唱「友へ旅立ちの時」

私たちの卒業式構成詩のテーマは同期の「朋」をとって「とも」。どんな時も見捨てず、こまめに育ててくれた家族。世の中の厳しさを教えてくれた先生、仲間と過ごす大切さを教えてくれた先輩。この3年間を、最高のものにしてくれた友達。そんな、私たちが仲間のこと別々のところからこの同期高校へ集まった、たくさんの人たち。僕たちは、その肩を並べてつになり、そして「朋」になった。そんな朋に、さようなら、そして、ありがとう。今は別れても、私たちは生涯の朋です。

たいた、卒業証書を手にした374名の卒業生のみなさん。ご卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心より祝福いたします。思い返せば3年前の4月6日、皆さんは同期高校の門をくぐりました。当時、私は皆さんを長い冬の寒さをくぐり抜けて咲く、桜の花にたとえ

学校長祝辞

情は「一人への思い・優しさ」の大切さを肌で感じたことでしょうか。オーストリアの修学旅行では、美しい町並みに心を躍らせ、音楽の素晴らしさを実感したのではないでしょうか。一方で、強制収容所を見学された、戦争と人種差別の歴史を学びました。みなさんは、今、自分の思いの中で生きていることに感謝したことでしょうか。東北の震災復興を願い、被災された方々に対して今もなお、風化させることなく、自分たち自身でできることは何かを考え、活動されてきました。二つ々の活動は微力ながらも、決して、しかし、その活動を「継続」することが大きな力となり、被災された方々の苦難を乗り越える原動力になっていることではないでしょうか。

みなさんは、学校生活の中で、学業はもちろんですが、このように多くのことを経験することができました。それは、人の気持ちを感知し、友情や愛情、喜怒哀楽の感情を育て、これからは生きるのに大切な「自分」というものを育てることの大切さを学んだと思います。これからみなさんは、それぞれの新しい道を歩んで行きますが、さらなる「自分」を育て、自分が望む将来の夢を常に思い描き、その夢を叶えるために、苦しく辛いときも諦めることなく、自分の「道」を邁進してください。何事にも妥協せず、結果を出すためにベストを尽くす。結果が出なかった時には、次に向かって結果を出すためにベストを尽くす。人生は、この繰り返しかと私に思います。

2020年には「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。6年後のみなさんは、自分の夢を叶えるため、どのような日々を送っているのでしょうか。オリンピックプレーヤーとして、出場する夢を叶えていますか。オリンピックに携わる仕事、建築、映像の製作・音楽・デザイン・通訳など、関わり方は多岐に渡ります。世界が注目する我が国の大イベントです。「自分」を育てるビッグチャンスとして目標にしてください。最後になりますが、この3年間を共に過ごした仲間には、みなさんにとって生の宝です。いつまでも仲間を想い、永く付き合える友として、大切にしてください。そして、本日、この卒業という節目にこそ、お世話になった仲間や先生、今まで育ててくれた家族に「自分」の言葉で感謝の気持ちを伝えてください。



ました。冬の寒さに耐えてきた桜のつぼみが、3月の末には、一気に開花する。厳しい冬の休眠状態を破って開花する。桜は巨寒さに曝され休眠することが必要なのだ、とお話ししました。そしてその後、みなさんはどんな花を咲かせたのか。私は楽しみにしておりました。それが今、あの時には思いも寄らなかったほど成長した立派な姿を、私たちの前に見せておられます。それぞれの夢を心に描いて。

3年間の軌跡はそれぞれ違っても、誰もが同朋の気風に触れ、同朋の仲間たちに触発を受け、同朋の環境の中でここまで大きく成長しました。その成長の軌跡はこの後の「卒業式第2部」でみなさんと確かめ合いたいと思っております。これから旅立つみなさんには、いつまでも希望を持ち続け、生きがいをもって人生を歩んでほしいと強く願います。そんな願いを込めて、心理学者神谷美恵子さんの「生きがいについて」という本にある言葉をみなさんに紹介しましょう。

神谷さんは言います。「人間から生きがいやう



卒業生対象「各種表彰者」

- ★愛知県知事賞 普通科 稲葉 康将(色中学校出身)
- ★名古屋市長賞 音楽科 水野かおる(千種中学校出身)
- ★日私中高連会長賞 普通科 小野田龍(駒方中学校出身)
- ★愛知県私立協会会長賞 普通科 杉山深太郎(供米中学校出身)
- ★産業教育振興中央会賞 商業科 久世 健一(当知中学校出身)
- ★愛知県産業教育振興会賞 商業科 二村 優伽(柳中学校出身)
- ★全商協会理事長賞 商業科 三輪 志帆(常滑市立常滑中学校出身)
- ★愛知県商業教育振興会会長賞 商業科 楠本 沙希(岡崎市立栄北中学校出身)
- ★私学協会優良生徒 普通科 眞代 美幸(白野中学校出身)
- ★高校生新聞社賞 商業科 永谷 勇気(東港中学校出身)

「朋」の意味 ～合唱構成詩を一緒に作り上げた仲間～

卒業生 春日井 琴子 (山田東中学校出身)

同期高校の卒業式には第2部があり、生徒たち自身でつくりあげる高校生活の集大成となるものです。有志が集まった実行委員会がスライド・BGM・朗読・合唱で高校生活を振り返る構成詩を発表します。その実行委員会の中で、構成詩部門のチーフを引き受けました。引き受けた理由は2つです。1つ目は、担当の先生がやれと言いきく折れる心配がなかったからです。とんだお人好しです。2つ目は、部活の後輩への想いからです。私は演劇部の部長でした。毎年、演劇部の1・2年生は卒業式の照明を担当しており、自分ができることで少しでも後輩の負担を減らそうと思っていました。どうせやるならいいものを



卒業生感想

のをつくりたいくらいは思っていました。朗読練習が始まる時は不安しかありませんでした。49人をもとめられる自信がなく、卒業式までに2週間ほどしかなかったからです。ただ文を読むだけなら十分かもしれません。BGMとスライドに朗読を合わせて、私たちの想いを伝えられる朗読に仕上げられるには時間が足りず、間に合わないかと焦っていました。しかし、練習をしていくうちにみんなが私に気を使ってくれていることがとても伝わってきました。私と同じ高校生なのに、私の言うことに返事をし、考え動いてくれて。練習をしやすい環境をみんなで作ってくれました。いいものをつくりたいと思っていた子の多さに気づかされ、その気持ちに私のできる一番で応えたいと本気で思えました。最後までやり切る力が生まれました。チーフなど人をまとめる役割は人の上に立つ感覚が苦手だから嫌でした。しかし、構成詩をつくっている時はそんなことちっとも思いませんでした。たて、私もたくさんの人に頼っていたからです。

卒業式後に朗読者の一人が「構成詩やつてよかった」と言いに来くれました。その子は私と同じように進んでやっていた。そりやもう本当に嬉しくて一緒に泣きました。今年のテーマ「朋」には、「一緒に何かをやりとげた仲間」という意味があります。私たち実行委員は構成詩を通じて、本当の意味で「朋」になることができました。

在校生感想



207 桶本 侑加 (東海市立加木屋中学校出身)

挑戦することの可能性

「今まで無理だと思っていたことは、何も挑戦することなく無理だと決めていたんだ」——在校生企画を終えてまず私が思ったことです。

「浮き上がる映像をつくらう！」とスタートした在校生企画。どうしたらうまく映像が映るかたくさん実験をしたり、メンバーで話し合いをしたりしました。しかし、進んでいるという実感はなかなかありません。何日もかけて決めた内容が次の日には180度変わってしまうのです。その時は全てがうまくいかず、不安と焦りだけが増え、いきました。でも、少しずつうまくいくこともわかってきました。インターネットで調べたことがうまくいく、内容が少しずつ決まっていって、どんどんアイデアが生まれる……全員で努力し、諦めなかったからこそ決まっていきました。私はこのような自主活動に参加したことがなくて初めは聞かばかりでしたが、だんだん自分の意見も言えるようになりました。

思っていたものではなかったかもしれないけれど、目指していたものに近いものを作ることができました。在校生企画は「物ができた」ということよりも、どのように努力し、やりきったと言えるかが大切だということに私に教えてくれました。全てのことやってみないとわからなくて、挑戦することが大切だと学ぶことができました。

本当の友達

103 伊藤 美祐 (愛瀬中学校出身)

初めて同期高校の卒業式に参加してみて、自分が中学を卒業した時と同じくらい感動しました。

卒業式前日のリハーサル。3年生の合唱で既に泣きそうになって、「3年生卒業しないでほしいな」とか「絶対本番号泣くだろうな」とか頭の中でずっと考えていました。そして当日、式直前の最後の合唱練習で、本番で泣きすぎてちゃんと歌えるだろうかと心配になりました。

本番が始まりました。第一部では泣くこともなく第二部に移りました。クラスメート紹介の所で号泣してしまいました。そして3年生の合唱構成詩で号泣、今度はずっと涙が止まりませんでした。

東日本大震災で被災した卒業生の話が印象に残っています。自分たちは今こうして生きていられるけれど、あの時は数え切れない人たちが死んで、家にも帰れない状態でした。急に身近な人たちが死んだら……と考えると余計に涙が出たし、こうやって何ん自由なく生きていくことがどれだけ幸せなことか思い知らされました。

沖繩の修学旅行は1番感動しました。まだ行っていないから、なぜ行った気持ちになっしまいました。おじいおばあの「いつだってしゃい」に涙が出ました。この言葉の良さが伝わりました。

この卒業式で、「友」についてたくさん考えさせられました。友達って本当に必要だと思いました。同時に本当の友達って何だろうと考えさせられました。友達を大事にする、自分を犠牲にしてもその子のためにできるくらいになる

と本当の友達といえるのかなと思います。何かあったらすぐにわかってダメなことはダメだといえる友達に出会いたいと思いました。

先輩ともっと部活をやりたいです。けれど永遠の別れじゃないと思うから、最後は笑顔で送ることができました。時間はあっという間だから一日いちにちを大事にしたいと思います。クラスメイト！部員！同期！みんなと楽しい時間を作れるように。



クラスメッセージ

- 101 これからも夢に向かって
- 102 卒業しても…みんな仲良し〜♡
- 103 向日葵 ひまわりのように
自分の太陽に向かって真っすぐと
- 104 才能で負けるなら努力の数で勝てばいい
- 105 卒業は未来への花道
- 106 夢は終わらない!!
- 107 諦めない勇氣
- 108 人生にブレーキなんて必要ない
- 109 帰る場所はここにある
- 110 やっぱ仲間があったかいんだから
- 111 優しい先輩が大好きです
- 201 感謝
- 202 未来へ翔たいてみ妖怪
- 203 自分の決めた道を信じて
- 204 赤グミ ダイスキ 100%
- 205 新しい日の出 NEW SUNRISE
- 206 夢は言い続ければ必ず叶う
- 207 先パイ達の笑顔 あったかいんだから
- 208 笑顔を忘れず前進あるのみ!!
- 209 待てば海路の日和あり
- 210 輝け未来
- 211 「さようなら」は思い出の句読点



合格体験記

先日卒業した先輩から、在校生のみなさんに在学路に対するメッセージを寄せていただきました。

藤田保健衛生大学 医療科学部看護学科合格

普通科 宮田 友紀
(豊国中学校出身)

私は高校3年生の春に「看護師」という仕事に興味を持ちました。夏休みに「1日看護師体験」に参加し、実際に医療の現場を見て看護師になりたいという思いが強くなりました。先生に看護の大学に行きたいということを相談しました。けれど先生には「看護系は競争率が高いから難しいぞ」と言われました。実際、私は看護を目指すには受験勉強を始めるのが遅かったので、現実をつきつけられて、かなりの焦りや不安を感じました。それでも、これで諦めてしまうのは負けた気がして嫌だったので、その日から必死に勉強をしました。また、私が合格できたのは1・2年生の時にAPを受講していたこと、3年生の進学補習受講をきっかけに勉強の習慣が身についていたこともあったと思います。もう一つは周りの人たちのサポートです。

小論文の添削指導をしてくださった先生方、悩みを聞いてくれた友達、たくさんの人たちに支えてもらいました。入試前日は不安で泣きそうになりました。だけど今までやってきたことを信じて全力でやることができました。そして合格することができました。私は難しいと言われても諦めずに必死に取り組みごとの大切さを学びました。そしてサポートしてくれた人たちに感謝したいと思います。

長岡造形大学 プロダクトデザイン学科合格

普通科 加藤 誠史
(大高中学校出身)

僕が受験する大学を考えたのは高校2年生の夏でした。当時、僕は数学と英語の進学補習と塾へ、更に美術系の塾にも通っていました。内容は学校の授業の応用が中心でした。塾では週に2時間の授業を3つ受けていましたが、授業のスピードはとても早く、質問なしで理解できる内容は少なく、初めは何度も辞めようとしていました。しかし、僕と同じ状況でも必死にノートをとっている人の姿を見て、自分も全力で受験勉強をしようと決めました。受験生になると僕はセンター試験対策に力を入れました。毎日授業後に学校の進学補習、その後塾へ通いました。家へ帰るのは夜10時を過ぎる日が当たり前でした。しかし僕の成績は勉強量に比べて上がりません。先生に相談し、復習に力を入れて勉強することにしました。すぐに

は力になりませんが、3年生の夏になるとセンター試験は以前の倍以上の点数が取れるようになりました。

そして僕は学科の勉強と同時に実技試験の練習にも力を入れました。志望していた大学の実技試験は、その内容が発表されていないため、どんな課題が出されても対応できるように、色彩・平面・立体構成など様々な練習をしました。試験の2週間前からは学校の先生と面接練習もしました。少しでも不安な所は徹底的に練習して、当日までには、学科・実技・面接どれも自信を持てる状態になりました。そして当日、実技では練習の成果を発揮し、面接では自分をしっかりとアピールすることができました。

僕が受験勉強の際大切にしていたことは、誰にでもできることを誰もできないくらい努力し練習することで、自分の実力に変えていく、ということでした。学科の予習や復習、実技試験の練習などどんなことでも、周りをより努力を重ねて実力をつけることで、自分に自信が持てる良い結果が出る、そう思います。

名城大学 経営学部国際経営学科合格

商業科 鹿倉 芽依
(宝神中学校出身)

私がこの大学に受かることができたのは自分自身の頑張りはもちろん、支えてくれた家族や先生、応援してくれた友達、いろいろな人のおかげだと思っています。

私がこの進路に進もうと決めたのは高校2年生の秋からでした。元々は経営学科に進もうと考えていましたが、高校2年生の夏に同朋高校のプログラムでオーストラリアにホームステイをしに行く機会があり、そこで多くのことを学びました。その中で私は世界的な商業をしてみたいと思うようになりました。しかし名城大学の合格は正直不可能だと言われました。担任の先生や両親、親戚からも違うところを考えてみたらと何度も言われました。両親と喧嘩することも多くありました。それでも私は、国際経営学科に行きたくて毎日必死に勉強しました。

試験日の1ヶ月前からは、昼休みに英語の先生につきっきりで教えてもらったり、放課後は過去問や英語の勉強、面接練習は友達がしてくれたりもしました。毎日夜遅くまで学校に残って勉強をしました。その度に母が学校まで迎えに来てくれました。試験当日もたくさんの人から応援のメッセージが届きました。それが私にとって一番の支えとなりました。私はたくさんの人に支えられたからこそ、合格できたのだと思っています。

又、今回志望校に合格したことで、諦めないことの大切さを実感しました。途中で辛くても諦めたくなくても、諦めずに続けることが大切なのだ改めて感じました。この大学に合格したことで私は一段と成長できたと思います。それを支えてくれた先生や友達、両親に感謝したいです。

2014年度 合格状況

(2015年3月31日現在)

大学

同朋大学・名古屋音楽大学・名古屋造形大学
三重大学・長岡造形大学・法政大学・専修大学・
愛知大学・中京大学・名城大学・愛知淑徳大学・
愛知学院大学・藤田保健衛生大学・金城大学・
椋山女学園大学・名古屋外国語大学・
名古屋学芸大学・中部大学・愛知工業大学・
武蔵野音楽大学 など

短期大学

南山大学短期大学部・愛知医療学院短期大学・
至学館大学短期大学部・
名古屋女子大学短期大学部 など

専門学校

愛知県立総合看護専門学校・名古屋市医師会看護専門学校・
星城大学リハビリテーション学院・大原法律公務員専門学校・
トヨタ名古屋自動車大学校・中部美容専門学校・
名古屋情報メディア専門学校・ニチエイ調理専門学校・
名古屋文理栄養士専門学校・
名古屋医療秘書福祉専門学校 など

就職

東海旅客鉄道(JR東海)・日本郵便・ヤマサちくわ・三ツ矢製菓・
センゾー・信用組合愛知商銀・クラシエホームプロダクツ・
キングコーポレーション・愛生福祉会・コーリツ など

商業科

努力の継続の結果 5種1級合格

商業科に在籍している生徒なら、誰もが検定でより多くの1級を取得したいと考えていると思います。私も入学当初から、五種目1級合格を目標にして3年間努力してきました。そして努力は無事に実り、なんとか全商簿記検定、情報処理検定、ビジネス文書検定、珠算、電卓検定、商業経済検定の五つの検定で1級に合格することができました。

検定をたくさん受けようと思うと、もちろんその分受験料もかかりますし、勉強時間も増やさなければならず、苦勞が多いです。定期テストや他の検定と時期が重なってしまった時などは睡眠時間も十分取れないことが何度もありました。もともと勉強があまり好きではなかったため、投げ出してしまおうかと思ったこともありましたが、しかしそうしなかったのは、一度決めた目標は最後までやり遂げたいという気持ちがあったからです。1級を5つ取得するという長い道程では、諦めないという気持ちが大切です。

全国商業高等学校協会主催 検定試験

五種目1級合格者

鹿倉 芽依 (宝神中学校出身)
三輪 志帆 (常滑市立常滑中学校出身)

四種目1級合格者

深津 尚吾 (助光中学校出身)

三種目1級合格者

久世 健一 (当知中学校出身)
成田 侑里子 (稲沢市立稲沢中学校出身)
松山 莉奈 (常滑市立青海中学校出身)
水谷 百伽 (豊正中学校出身)
松島 里奈 (北名古屋市立訓原中学校出身)



309 三輪 志帆 (常滑市立常滑中学校出身)

それに加えて、私は検定間近でなくとも、コツコツ地道に勉強を続けるという癖をつけました。例えば、授業中に行われるちょっとしたテストでも、点数を落とさないように毎回ちゃんと勉強したり、授業の復習をしたりなど、検定間近になって、さあいざ勉強と意気込んで、普段から集中して勉強する癖がついていないと、その時だけ頑張ろうと思っても難しいと思います。そういった努力の一つひとつが、結果的に五種目1級合格に繋がりました。五冠は一生涯誇れることだと思うので、これから頑張る後輩のみなさんぜひ五種目1級合格を目標に頑張ってもらいたいです。

生活設計講座

一般社団法人全国銀行協会と一般社団法人古屋銀行協会にご協力いただき、1年生商業科生徒を対象とした「生活設計講座」を実施しました。

最近では銀行を舞台とした小説やドラマがヒットするなど、銀行業界に注目が集まっています。そこで、今回はある銀行ドラマのモデルとなった銀行に勤務された方から、金融業とは何か、銀行とはどのような仕事をしているのか、ドラマで描かれた内容は実際に起っているのかなど、興味深いお話を伺いました。

その後、6人程度のグループを作り、マネープランゲームを活用しながら、生活設計シミュレーションに取り組みました。給与明細の読み取り方からはじまり、車を購入した場合、住居を「建てマンション」賃貸のどちらに住居した場合、子育てする子どもなどの数などを、カードゲームを利用しながらシミュレーションします。また、交通事故などのアクシデントに見舞われた場合、多額の費用が発生します。それに備えた保険加入をどうするかなど、リアルなシミュレーションを行うことができました。

生徒には、生活設計や資金計画の重要性を理解するだけでなく、家族との思い出を大切にしたい、生活設計を考える機会になったのではないかと思います。

これからの時代は、「賢い消費者」がキーワードとなります。本校商業科は、商業教育に加え、消費者教育にも力を入れた教育活動を、今後も展開していきます。

(商業科主任/平野裕騎)

放送部ビデオ大賞受賞

事実を伝える大切さ

放送部 東京ビデオフェスティバルで
最優秀のビデオ大賞受賞

302 鈴木 将敏 (福沢市立福沢中学校出身)

「時をかける少女」の大林彦彦監督や、スタジオジブリの高畑勲監督など著名人が審査員をつとめる「東京ビデオフェスティバル(TVF)2015」で、私たち放送部のドキュメント作品「アジア太平洋戦争、中国の2つの戦場」が、最優秀の「ビデオ大賞」を獲得しました。217本の応募作の中で、第一次審査で「優秀賞」の10本に残り、最終公開審査をくぐり抜けました。公開審査は、誰がどのような視点で評価したのか、問題点はどこなかもわかってしまったため、これまでに経験したことのないような緊張を味わいました。それに加えて、審査員からは質問が飛んできて、頭の中が真っ白になってしまいました。けれど、結果的には「歴史に真実に向き合っている」「生徒どうしの対話型のドキュメントでもある」と評価してもらうことができました。



実は、この作品は、NHK杯全国高校放送コンテスト愛知県大会で、全国大会を逃したものでした。しかしそれでは、証言者の方々に申し訳ないと思い、8分の作品を15分半に拡大し、作り直したものです。

作り直すにあたっては、NHK杯全国高校放送コンテスト愛知県大会で、全国大会を逃したものでした。しかしそれでは、証言者の方々に申し訳ないと思い、8分の作品を15分半に拡大し、作り直したものです。



女子サッカー

- 愛知県高校女子サッカーリーグ2部 優勝 → 27年度から1部リーグに昇格!
- 第17回愛知県U-18フットサルリーグ 優勝

Club & Award News



2年生

「卒業生を囲む集い」～進路を考える～



同朋高校ではキャリアデザインの二つとして2年生の3月に各分野に進学就職をした卒業生を招いて、「卒業生を囲む集い」(進路を考える集い)を実施しています。

この集いは2部構成になっています。1部は全体会として3人の卒業生に高校時代、卒業後の進路について話をしてもらいました。2部では、小グループに分かれて各分野に進んだ卒業生から専門的な内容を聞き、質問できる場を設けました。

(2年生キャリアデザイン担当/楳木振郎)



Clipping Reports

『月刊ピアノ』 2011年度 音楽科卒業生
2015年3月号 鎌田かおりさん(四日市市立西陵中学校出身)

プロのマリンバ奏者を目指し、本校卒業後、ドイツへ留学して頑張っている様子が、雑誌に大きく取り上げられました。

206 関谷 愛華 (八幡中学校出身)

今回お話をしてくださった3人の方それぞれに進路を決めるときの方針や勉強の方法、高校時代の過ごし方があったことを感じました。自分のやりたいこととやるべき事に全力で取り組んでいたことが分かりました。そして、「何事も前向きにとらえること」の重要性と「楽をしていたら夢は叶わない」ということを学びました。先輩方の意見で共通していたのは、「諦めない」ということ。諦めず夢を追うという大切さを教えてくださいました。

209 浅野 かおり (豊正中学校出身)

私は「1年だけで勝負はつかない」という言葉が心に残りました。大学受験、定期テスト、就職などすべてに共通する言葉であると感じました。その他にも、土屋さんの「楽をしたら夢は叶わない」、川田さんの「今からでも進みたい進路について学ぶことは決して遅くない」という言葉が心に残りました。自分に夢があるのならきちんとそれに向かって努力をし、自分がなりたい職業に向かって進んでいこうと思えます。全体会のお話を聞き、勇気と安心をもらいました。



1年生

**「楽しかった」のために
スポーツ大会に携わって**

105 牧 駿介 (扇台中学校出身)

僕は2学期から、実行委員としてスポーツ大会の企画・運営に携わりました。実行委員の中での僕の主な仕事は、対戦カードの決定やトーナメントの作成です。最初は簡単だと思っていたこの仕事はクラス内で試合を観戦できるようにするために、1つのクラスが同じ時間帯に2つ以上の種目に出ないようにしたり、全クラスの試合数をできるだけ等しくしたりと、考えることはとても多く大変でした。仕事がなかなか終わらず、授業後遅くまで学校に残って準備する日も多々ありました。当日は、審判や運営など多くの仕事がありました。しかしそれは、クラ連や部活動のメンバーが積極的に動いてくれたので、大きな問題なくスムーズに進行することが出来ました。その人たちのおかげで僕は自分の仕事だけでなく、自分の出る種目も精一杯頑張ることができたのでとても感謝しています。それにみんな楽しそうに競技に出たり観戦したりしていたので、「頑張って準備できて良かったな」と思いました。終わってからもSNSで「スポーツ大会行くの面倒くさかったけど、楽しかったから行ってよかった」などの言葉を目にするのができ、改めて頑張ってきた良かったと思えました。



今はいろいろアドバイスをくださった先生方や手伝ってくれた多くの人が、そしてスポーツ大会を全力で楽しんでもくれた人たちに「ありがとう」を伝えたいと思います。

